



高山村の地域資源を活用した むらの中心地づくり基本計画

住み続けたいくなる 居心地のよいむら たかやま



— 目 次 —

第1章 計画の概要

- 1-1 背景と位置付け 1
- 1-2 計画の目的 2
- 1-3 対象区域 2

第2章 基本構想

- 2-1 むらの中心地づくりの目標 3
- 2-2 基本方針 4
- 2-3 むらの中心地構想図 6

第3章 基本計画

- 3-1 村の中核をになう観光拠点の形成 7
- 3-2 子育てから介護までの連携体制 11
- 3-3 いざというときのための防災拠点の整備 14
- 3-4 田園風景の保全と調和 16
- 3-5 生活しやすくするための社会基盤の整備 18

第4章 むらづくりに向けた実現化方策

- 4-1 実現に向けての基本的考え方と役割 20
- 4-2 事業スケジュール 22

資料編

- 1 資料 26

第1章 計画の概要

1-1 背景と位置づけ

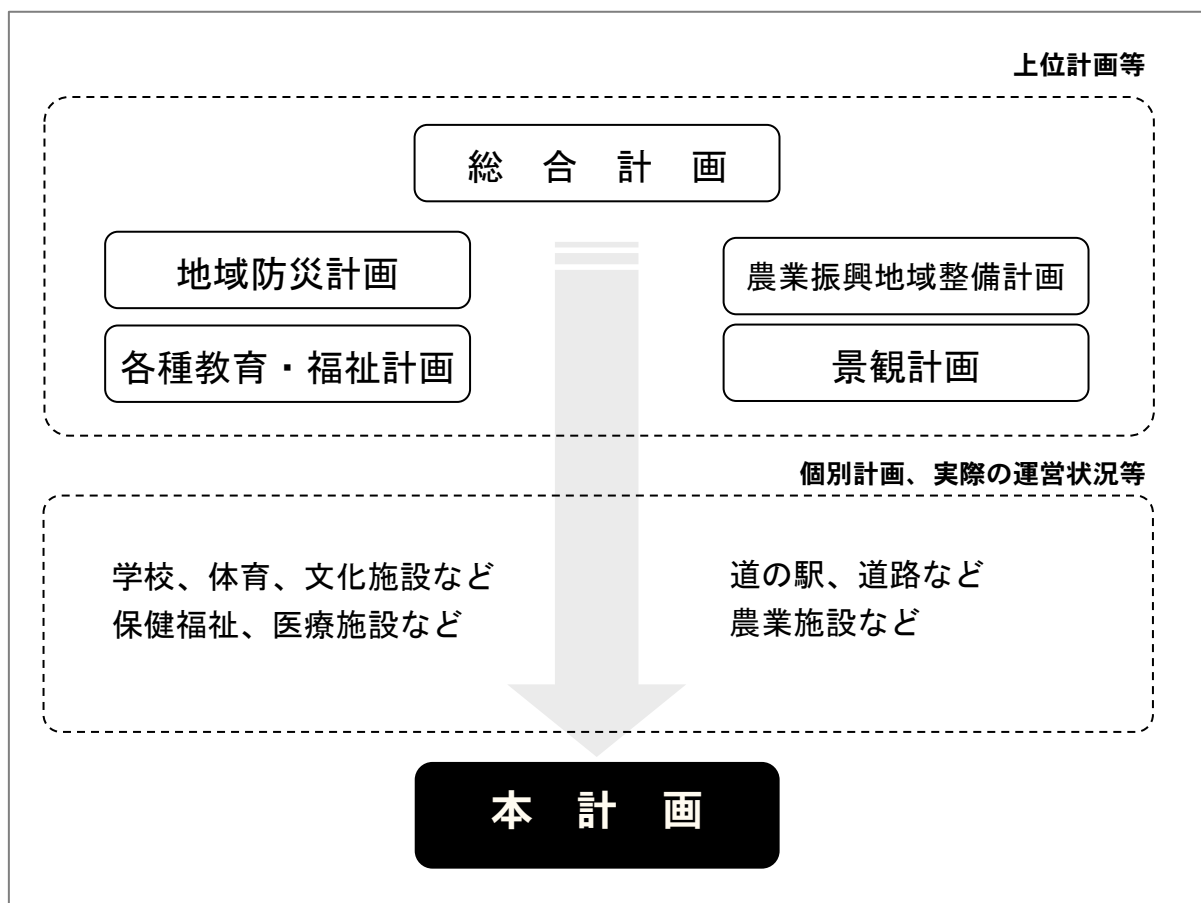
平成27年3月に策定した第5次高山村総合計画における土地利用方針では、むらの中心地において「村の拠点施設の形成」「田園風景の保全エリア」「教育文化拠点の形成」「医療・福祉地区」が位置づけられており、様々な計画が基本計画に示されています。

地域防災計画では、災害本部、応急対策活動や救護活動の拠点、小中学校等の避難施設が道の駅「中山盆地」を中心に集積しています。その中で、道の駅「中山盆地」やいぶき会館については、外部からの受け入れや中枢基地の機能を果たせるよう整備することが位置づけられています。

一方、景観計画をみると、むらの中心地は住宅地区（判形地区）、住宅地区（新田地区）と、農業振興地域をベースとした農地地区に類型化され、景観形成方針が示されています。

平成26年3月にオープンした道の駅「中山盆地」の計画では、新たな拠点施設に位置づけ、都市との交流、ガイドボランティアによる観光情報発信や地域住民の避難場所として活用することとしています。

本計画の位置づけは、上位関連計画を具現化するための方針と基本計画を示すことになります。



1－2 計画の目的

本計画は、むらの中心地の整備の方向性を示すとともに、むらの中心地における様々な事業を位置づけることによって、計画的に事業をすすめることを目的とします。

この計画によって、観光客にとって、むらの魅力を感じられ、村民にとって生活しやすい中心地づくりを実現します。

1－3 対象区域

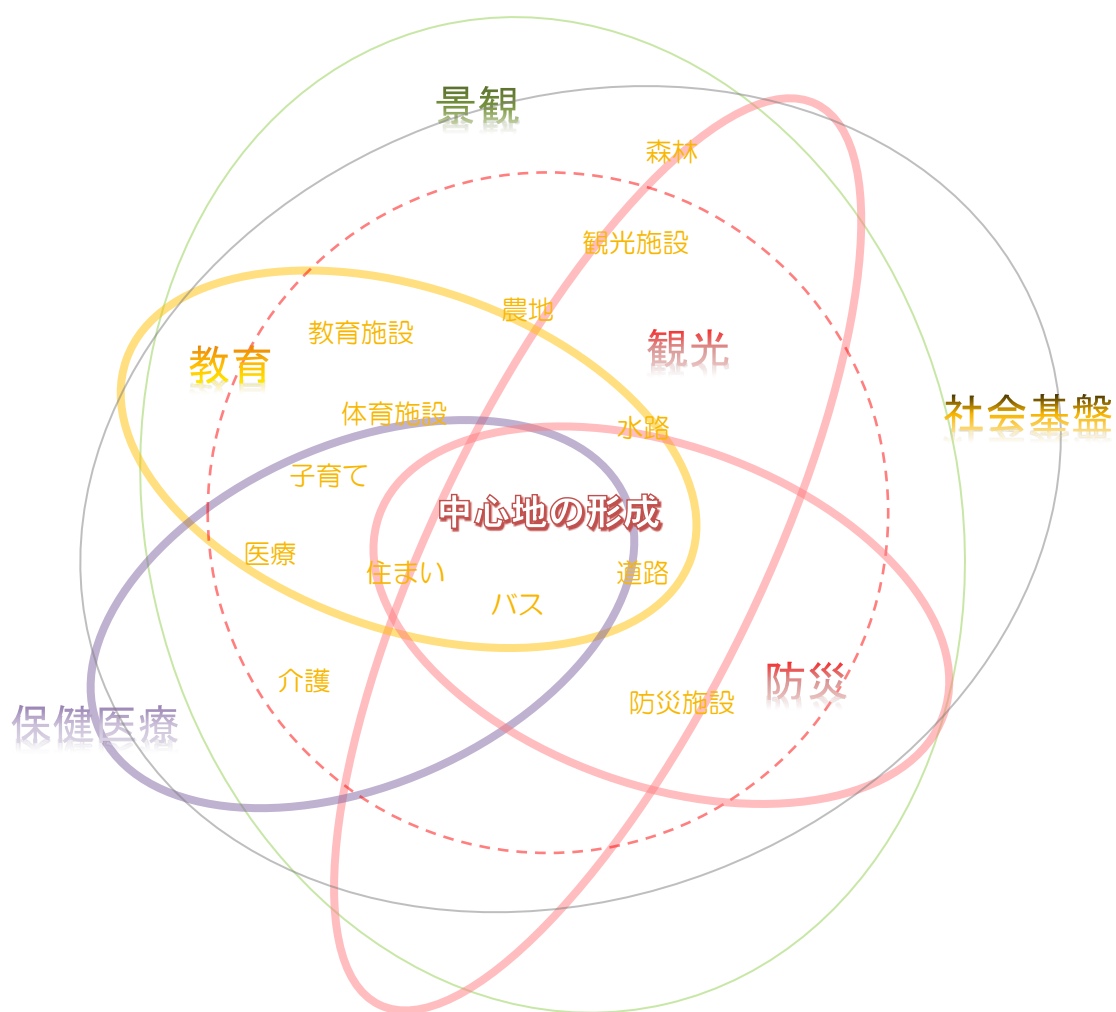
本計画の対象区域は、高山村の中心地とします。



2-1 むらの中心地づくりの目標

〇〇 住み続けたいくなる 居心地のよいむら たかやま 〇〇

自然豊かな景観の中で、村民相互、村民と都市との交流、様々な分野間の連携が、コンパクトなむらづくりによって形成されることによって、村民が笑顔で安心して暮らせるようなむらづくりを目指します。



2-2 基本方針

むらの中心地づくりの目標をうけ、5つの基本方針を定めます。

基本方針 1

村の中核をになう観光拠点の形成

むらの中心地づくりをすすめて、村を活性化するためには、村民だけでなく村を訪れる人々が増え、交流し、根付くことが必要です。

そのためには、村の中核となる道の駅「中山盆地」を観光拠点として強化し、施設の拡張や設備の充実をはかります。

また、旧三国街道は、観光地としての整備の可能性と居住環境の保全を考慮して、歴史居住エリアとして検討します。

さらにソフト策として、村民、NPO等各種団体の活動を継続または充実し、都市に居住する方々にとって魅力的な観光拠点の形成を行います。

基本方針 2

子育てから介護までの連携体制

人口減、少子高齢化対策の中で、子育ての充実は重要な施策の1つです。さらに子ども子育て支援事業計画が策定され、保育や教育の充実はもちろんのこと、家庭教育の充実及び地域の連携が重視されています。

また、高齢化社会に対応し、介護保険サービスの充実を通して、地域包括ケアシステムの構築が求められています。

これらに対応するためには、幼保の連携、教育施設の充実をはかるとともに、個別サービスを継続的に実施し、福祉施設、診療所、村外の病院等の連携をはかっていきます。

基本方針 3

いざというときのための防災拠点の整備

中心地は、村の中核機能を担うとともに多くの村民が居住する場です。したがって、一度、災害によって大きな損害を被ると、多大な資産を失うことになります。

よって、いざというときの備えが必要です。具体的には、中心地に立地する官公庁、教育施設に加えて、道の駅「中山盆地」を一体的にとらえ、防災活動のより一層の連携をはかりつつ、防災施設及び設備、防災資機材及び備蓄品を整備、充実し、災害に強いむらづくりをすすめていきます。

基本方針 4

田園風景の保全と調和

むらの中心地は、主要施設や住宅だけでなく、農業振興地域の農用地を含んでいます。また、中山盆地及びその周囲には森林や山が存在し、眺めの良い遠景が形成されています。これらの景観は、村民の心象風景であるとともに観光客にとって快適性を提供するため、保全することが求められます。

よって、農地における農道、水路の社会基盤整備や、河川の水辺等の整備にあたり田園景観と調和した整備を行っていきます。

基本方針 5

生活しやすくするための社会基盤の整備

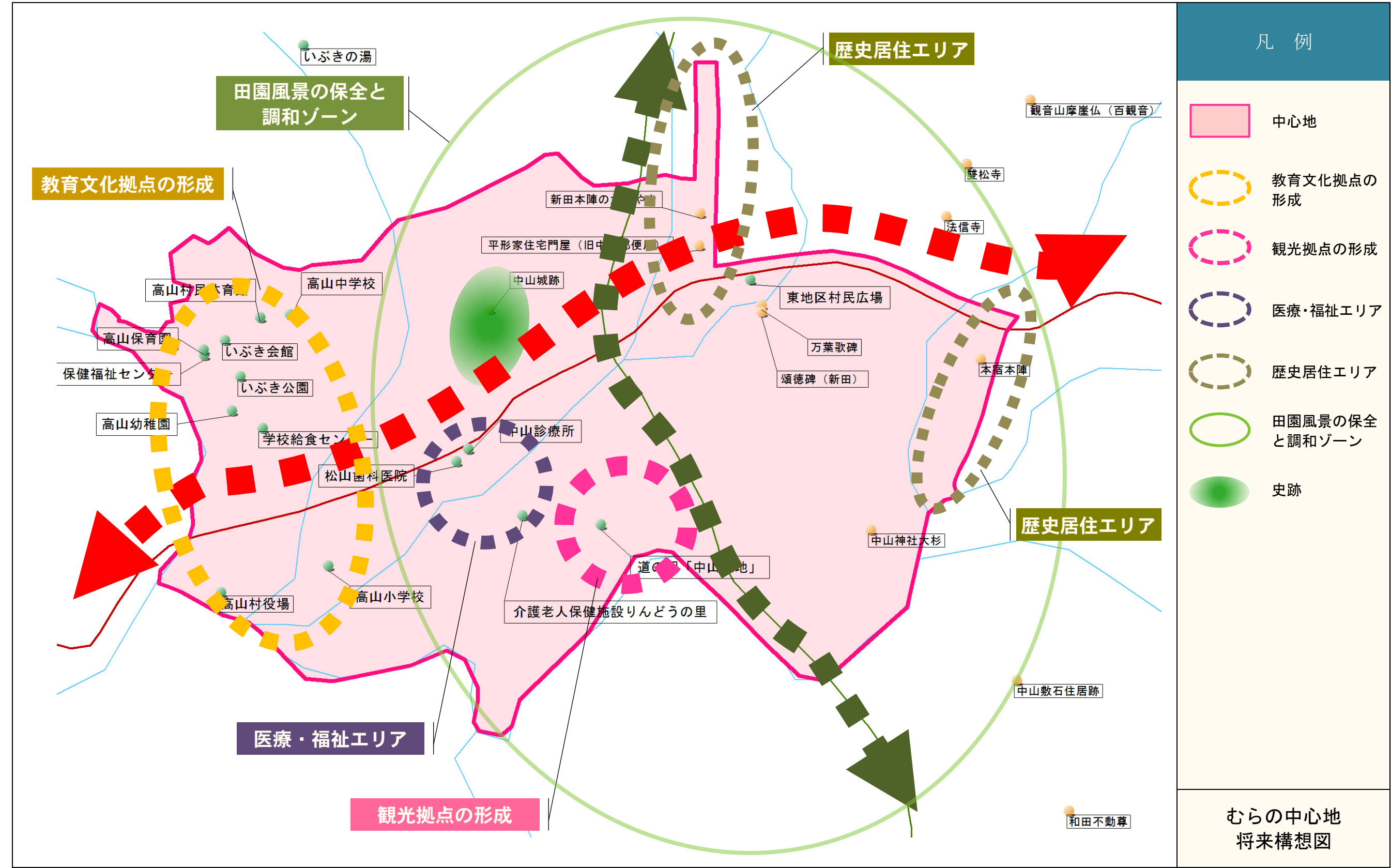
中心地は、多くの人々が居住しているため、行政機能、交通機能、インフラ機能等が充実していることはもちろんのこと、村民が教育や観光の場として活動するなど、都市機能の充実が求められます。

よって、官公庁、教育文化及び観光施設等の立地や、道路網及びバスの充実等を推進していきます。

また、人口減や少子高齢化を意識し、定住や集住も意識したコンパクトなむらづくりも行っていきます。

2-3 むらの中心地将来構想図

総合計画における土地利用構想との関係を考慮しながら、村の中心地づくりにおける目標及び5つの基本方針をうけ、中心地の将来構想図を示します。



第3章 基本計画

基本構想に示された5つの基本方針を実現するため、それぞれの施設整備方針と施設整備計画を示します。

3-1 村の中核をになう観光拠点の形成

(1) 施設整備方針

施設名称		目 的	整備方針
道の駅「中山盆地」	緑地公園整備	・中心地の活性化をはかるため、公園を整備し、観光客等の来訪者の休憩施設とする。 ・子育て支援の一環として公園整備を行い、子どもの健全な心身の成長と、中心地の活性化をはかる。	・遊具を設置する。 ・芝生広場及び緑地を設置する。 ・ドックランを設置する。 ・各施設の連絡機能及び安全確保をはかるため遊歩道を設置する。 ・トイレを設置する。 ・四阿を設置する。
	地域交流館	・遊休農地を活用し、都市に居住する人々が高山村に滞在し、村民と交流しながら農業体験できる拠点施設とする。 ・ガイドボランティアによる交流事業（登山等）の拠点施設とする。 ・平成22年に国民宿舎が廃館したため、宿泊機能等の機能の一部を引き継ぐ。 ・近傍の既存施設や本計画に位置づけられた施設との有機的な連携をはかる。	・宿泊施設（40～60人収容）を整備する。 ・ガイドボランティア等の活動拠点となる研修室または実習室を設置する。 ・調理室及び食堂を設置する。 ・シャワー室及び浴室を設置する。 ・災害時における避難施設として活用する。
	農産物加工施設	・地域で生産される農産物の付加価値の向上及び、農業従事者をはじめとする起業家の育成や地域農業の振興を図る。 ・加工品を商品化につなげ、農業所得の一層の向上を目指す。	・加工室を設置する。 ・必要に応じた加工機器を設置する。 ・農産物等を保管する保管庫を設置する。 ・更衣室、休憩室、トイレを設置する。
	駐車場	・施設の拡充に伴って、駐車マスを拡充、再配置する。	・駐車台数を確保する。 ・主動線である村道からの交通を適性に誘導する車道を再配置する。 ・交通を円滑に誘導するサインを再配置する。 ・緊急輸送車両を円滑に処理する交通動線を確保する。
	道路	・施設の拡充に伴って、交通を円滑に処理するための道路を再配置する。	・主要地方道渋川下新田線と道の駅の流入を適正に処理する主動線として、村道を再配置する。 ・交通安全及び災害に対応するための道路付属施設を設置する。

三国街道	街道	・宿場としての雰囲気演出する道路整備を行う。 ・観光交通に対する居住環境の保全をはかる。	・歩道スペースを確保する。 ・駐停車スペースを確保する。
	街並み景観	・観光客等にとって、魅力的な街並みを演出する。 ・景観重点地区を目指す。	・店先や住戸のかまへのデザイン、屋根勾配等、かき又は柵など、協定等を検討する。 ・無電中化、水路等を検討する。 ・屋外広告物等のデザインを検討する。
	照明	・村の景観計画及び光環境条例に基づき、間接照明等の設置を推奨する。	・間接照明（光環境条例参照）
ソフト策	備公園等整備委員会	・本計画の実現に向けた計画的な事業の推進及び合意形成をはかる。	・年6回実施
	道の駅運営委員会	・道の駅が主催し、出品者と実施する定例会議を支援する。	・年12回実施
	旧三国街道新田宿復活祭	・江戸と越後を結ぶ最短路であった三国街道の宿場町「新田宿」の賑やかだった頃を復活させたいという思いを形にした「新田宿復活祭」。	・実施日：11月 ・時 間：午前10時30分～午後4時 ・場 所：東広場・旧三国街道新田宿（新田交差点北） ・内 容：長野県上田市の真田鉄砲隊の演武、山車の巡行、いぶき太鼓、流しそば・おっきりこみ等無料配布、じり焼き・そばいなり等販売コーナー、わら草履作り等体験コーナー。※和服での来場は特典あり。
	山岳ガイド	・ガイドボランティアが主催する企画。春の十二ヶ岳と小野子山、秋の十二ヶ岳にて山岳ガイドを行う。	・実施日：4月（十二ヶ岳）、5月（小野子山）、10月（十二ヶ岳） ・時 間：午前9時00分 ・参加者：それぞれ30名 ・参加費：無料
	うたおかやクマ	・ガイドボランティアが主催する企画。緑豊かな初夏の高山村を歩きながら、村内の自然や歴史を楽しむ。	・実施日：5月 ・時 間：午前9時30分 ・参加費：1000円 ・コース：道の駅ー村内
	ナイトウォーク	・既存事業。光環境条例を制定している村の美しい星空を見ながら、村内外の人たちとの交流をはかる。	・実施日：11月（年1回） ・時 間：午後4時30分～5時30分 ・参加者：約100名 ・参加料：大人1人1,000円 中学生以下1人 500円 ・コース：道の駅ーぐんま天文台(9km)
	城址めぐり（真田道）	・ガイドボランティアが主催する村内真田道城址（中山城址、尻高城址、並木城址）をめぐるイベントを支援する。	・実施日：7月 ・時 間：午前9時30分 ・参加費：1000円（昼食代、保険料込み） ・コース：道の駅ー並木城址→尻高城址→昼食（道の駅）→中山城址



街並み景観

- ・景観重点地区として、景観協定等の検討
- ・無電中化、水路等の検討
- ・屋外広告物等のデザインの検討。

街道路

- ・歩道スペース
- ・駐停車スペース

ソフト策

- ・旧三国街道新田宿復活祭



新田本陣の大けやき

屋外広告物は、形態・意匠・色彩を街並みに調和させる。



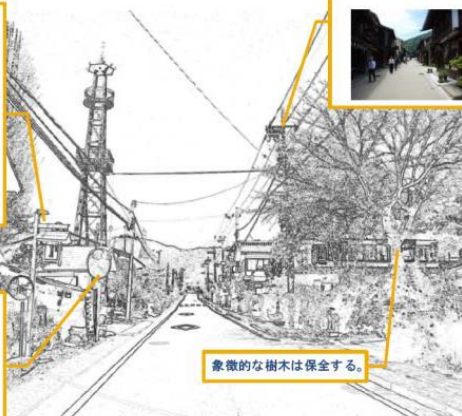
カーブミラーは、色彩を自然と調和させる。



電線は、地中化を行いスカイラインを確保する。



象徴的な樹木は保全する。

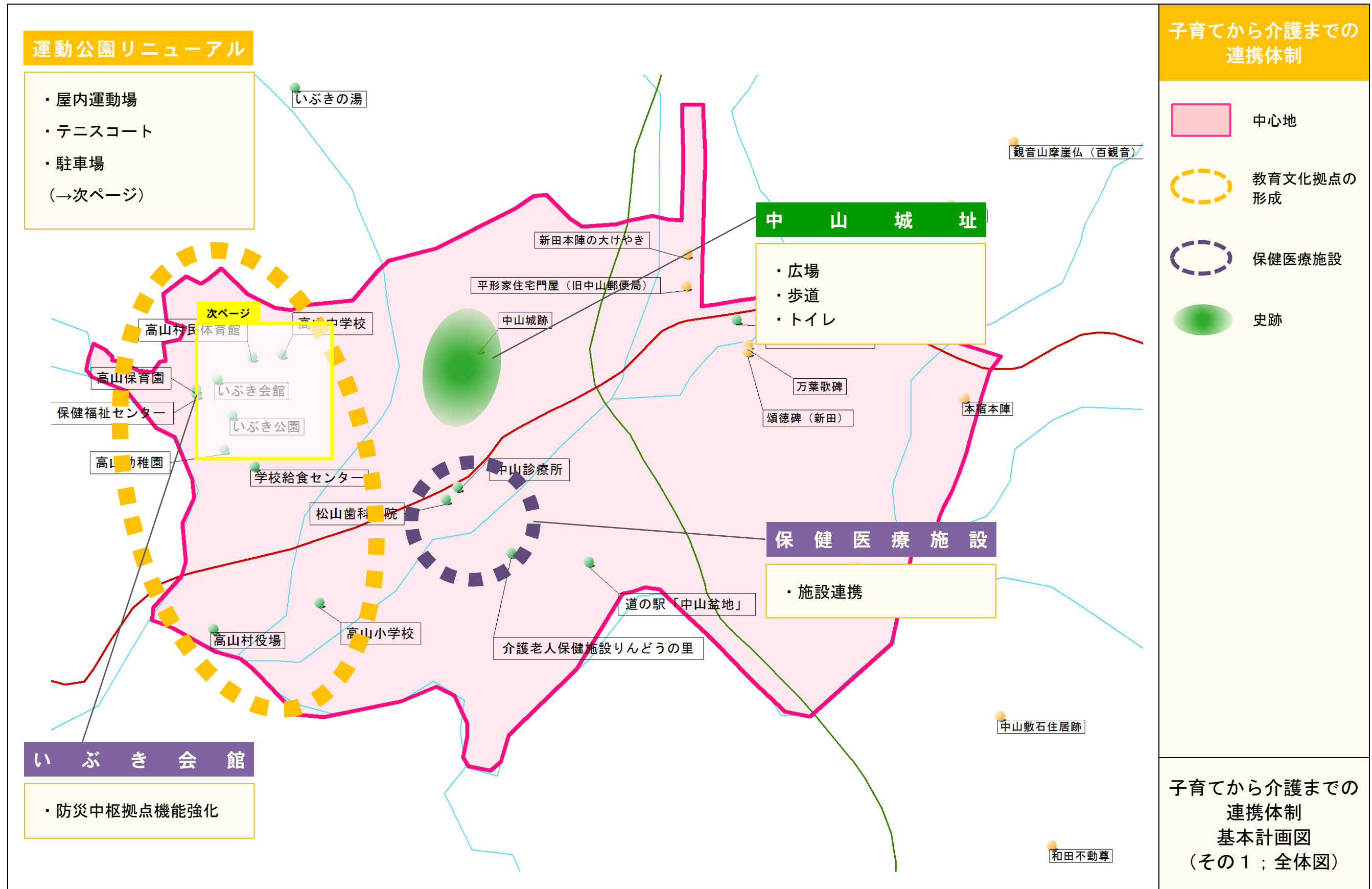


観光拠点の形成 基本計画図（その2；旧三国街道）

3-2 子育てから介護までの連携体制

(1) 施設整備方針

施設名称		目 的	整備方針
運動公園リニューアル	屋内運動場	・村民の心身の向上を高めるため、冬期においても都市と同様にスポーツ少年団活動及び体育協会の各種団体等のスポーツやレクリエーションを継続可能にする。 ・村民の生活習慣病を未然に予防することや、村内高齢者の運動機能を維持するため、スポーツ及びレクリエーションの場を新たに確保する。 ・緊急時には、地域防災計画に位置づけられた広域避難場所として、活用する。	・体育館機能を確保する。 ・グラウンドゴルフ、フットサルまたは、野球内野守備練習として使用できる面積で整備する。
	テニスコート		・テニスコートを2面整備する。
	駐車場		・駐車台数を確保する。 ・主動線である村道からの交通を適性に誘導する車道を再配置する。 ・交通を円滑に誘導するサインを再配置する。
いぶき会館		・村民の生活習慣病を未然に予防することや、村内高齢者の運動機能を維持するため、スポーツ及びレクリエーションの場を新たに確保する。 ・緊急時には、地域防災計画に位置づけられた広域避難場所として活用する。 ・また、村役場の機能喪失時には、この場所に災害対策本部の機能が移転されるため、代替機能を充実する。	・避難所としての機能を充実させる。 ・放送設備を拡充する。 ・衛星電話を確保する。
中山城址	広場	・たかやま真田道城址めぐりに位置づけられているため、歴史的な文化施設としてふさわしい広場を整備する。	・文化施設にふさわしい広場を整備する。 ・ベンチ、四阿を整備する。 ・間接照明を整備する。 ・サインを整備する。
	歩道	・たかやま真田道城址めぐりに位置づけられているため、歴史的な文化施設としてふさわしい歩道を整備する。	・文化施設にふさわしい歩道を整備する。
	トイレ	・たかやま真田道城址めぐりに位置づけられているため、歴史的な文化施設としてふさわしい外観かつ下水処理可能なトイレを整備する。	・景観に配慮したトイレを整備する。



テニスコート

・ 2 面

駐 車 場

- ・ 駐車場の配置



屋内体育施設

- 休憩施設
- 用具室
- トイレ
- 防球ネット

駐 車 場

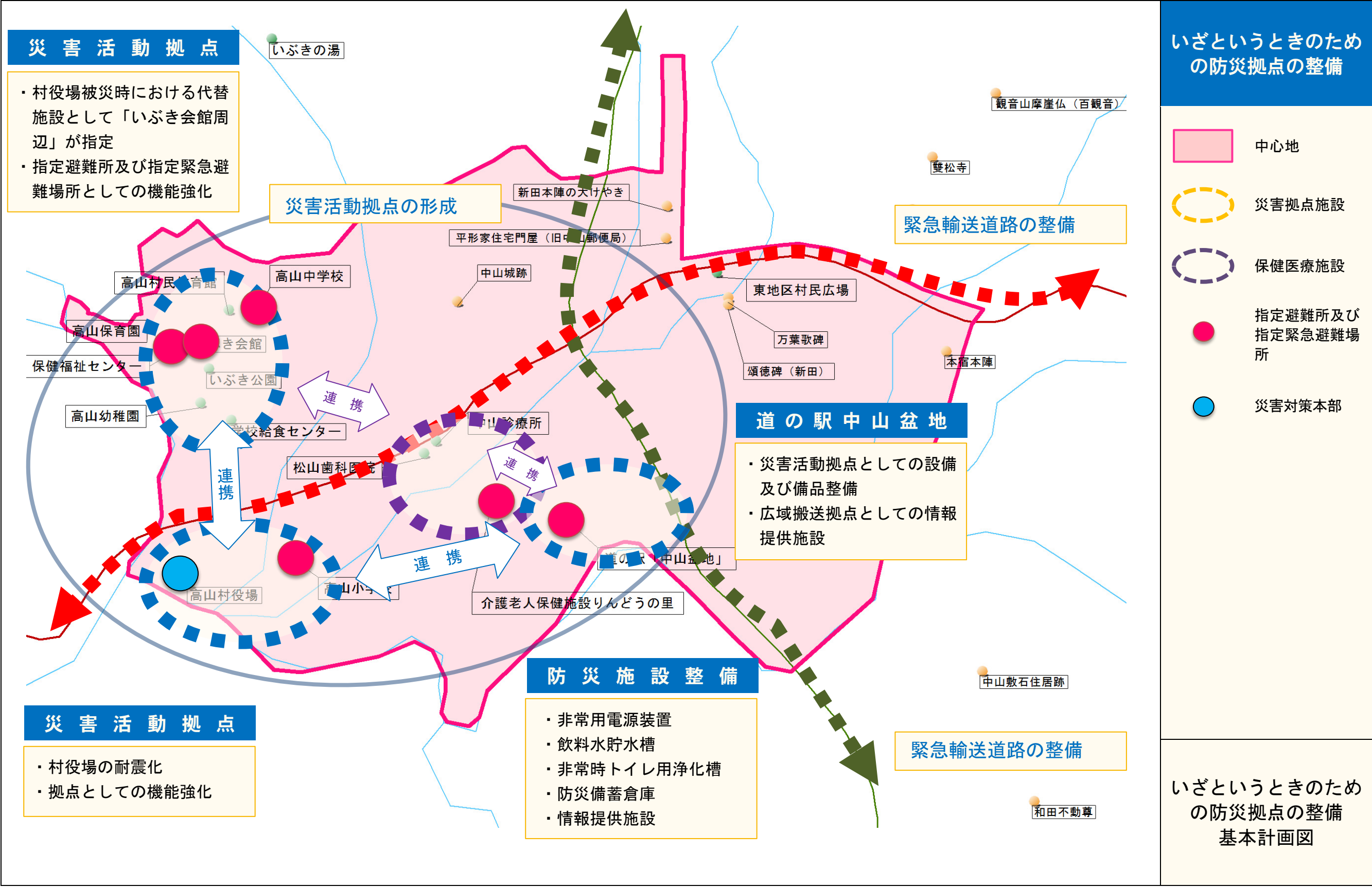
- ・ 駐車場の配置

教育・福祉施設基本計画図（その２；運動公園リニューアル）

3-3 いざというときのための防災拠点の整備

(1) 施設整備方針

施設名称		目 的	整備方針
道の駅「中山盆地」	源 非常用電 装置	- 道の駅「中山盆地」及びいぶき会館周辺は、「災害活動拠点」に位置づけられているため、中枢基地の機能を高める設備を設置する。 - 道の駅「中山盆地」は、「広域搬送拠点」に位置づけられているため、傷病者搬送や救急措置を行う機能を高める設備を設置する。 - 指定避難所及び指定緊急避難場所に指定されているため、炊き出し、生活環境の確保、自衛隊の派遣受け入れ等の運営に必要な設備を設置する。 →詳しくは「地域防災計画」を参照。	災害活動拠点及び広域搬送拠点の機能を確保するため、非常用電源装置を配置する。
	飲料水貯水槽		- 村民に対して、飲料水を確保する。 - 観光客等の来訪者に対して、宿泊機能、飲料水の確保等を行う。 - 医療活動に用いる飲料水を確保する。
	浄化槽整備 非常用トイレ用		避難者、傷病者、職務にあたる者が、円滑に活動を継続するため、し尿を適正に処理する浄化槽を整備する。
	施設情報提供 整備		災害活動拠点及び広域搬送拠点の機能を確保するため、情報提供施設を整備する。
	防災備蓄庫		- 食料、生活必需品を備蓄する。 - 医療・介護用品、医療資機材を備蓄する。 - 応急復旧用資機材を備蓄する。 - 被災宅地危険度判定のための資機材を備蓄する。 - 消火資器材、排水機器、融雪剤を備蓄する。
災害活動拠点	役場	- 役場は、村の中心、シンボルであるとしてふさわしいデザインを行う。 - また、防災中枢機能としてふさわしい構造、設備を充実する。	- 役場の耐震化を行う。 - 拠点として機能強化する。
	いぶき会館周辺	村役場被災時における代替施設として「いぶき会館周辺」が指定されているため、必要な設備及び備品を充実する。	- 防災設備を整備する。 - 備品を備蓄する。 - 指定避難所及び指定緊急避難場所としての機能強化を行う。
道路	緊急輸送道路の整備	大規模災害時に、救急搬送、消火活動、救援物資輸送等を円滑に実施するため、輸送施設及び輸送拠点を円滑に使用できるような体制を整備する。	- 道路改良または交差点改良を行う。 - 緊急輸送道路から指定避難所及び指定緊急避難場所への接続箇所及び村道等のルート整備を行う。



3-4 田園風景の保全と調和

(1) 施設整備方針

施設名称		目 的	整備方針
サイン	日本ロマンチック街道	・景観計画に位置づけられている道路軸の類型別方針を具現化する。 ・道路沿道からのロマンや歴史あふれるすばらしい眺望景観を保全する。	・既存のサインの補修を行う。 ・施設整備にあわせて新たにサインを設置する。 ・眺望景観を保全する。
	三国街道	・道路沿道の道路附属施設のデザインに配慮するだけでなく、緑化・美化を推進し、きれいな道づくりを推進する。 ・道路沿道の屋外広告物のデザインに配慮し、きれいな道づくりを推進する。 →詳しくは「景観計画」を参照。	・既存のサインの補修を行う。 ・施設整備にあわせて新たにサインを設置する。 ・眺望景観を保全する。
景観類型別方針	(判形地区) 住宅地区	・景観計画において「住宅地区」に位置づけられており、役場周辺は、中心地としてふさわしい景観整備をはかる。	・ゴミ置き場（集積場）をリニューアルする。 ・地域や家庭での緑化を推進する。
	住宅地区（新田地区）	・景観計画において「住宅地区」に位置づけられている。 ・古くからの宿場町で、住宅等の建物が密集しており、当時の面影を残しながら、日常生活の利便性を確保つも、観光振興の立場で景観整備に取り組む必要がある地区。	・ゴミ置き場（集積場）をリニューアルする。 ・地域や家庭での緑化を推進する。 ・電柱等の無電柱化を推進する。 ・水路を整備する。
	農地地区	・景観計画において「農地地区」に位置づけられ、田園風景を保全します。 ・日本ロマンチック街道と旧三国街道からの眺望景観を保全する。 ・道路沿道空間は、緑化と美化を推進、花植え、除草等の活動を支援します。	・農振農用地を中心に計画的な農地転用を行い、景観を阻害しないようにする。 ・水路改修時には、景観に配慮したデザインにする。
ソフト策	旧三国街道新田宿復活祭	・江戸と越後を結ぶ最短路であった三国街道の宿場「新田宿」の賑やかだった頃を復活させたいという思いを形にした「新田宿復活祭」。	・実施日：11月 ・時 間：午前10時30分～午後4時 ・場 所：東広場・旧三国街道新田宿（新田交差点北） ・内 容：長野県上田市の真田鉄砲隊の演武、山車の巡行、いぶき太鼓、流しそば・おっきりこみ等の無料配布のほか、じり焼き・そばいなり販売コーナー、わら草履作り体験コーナー。※和服での来場は特典あり。

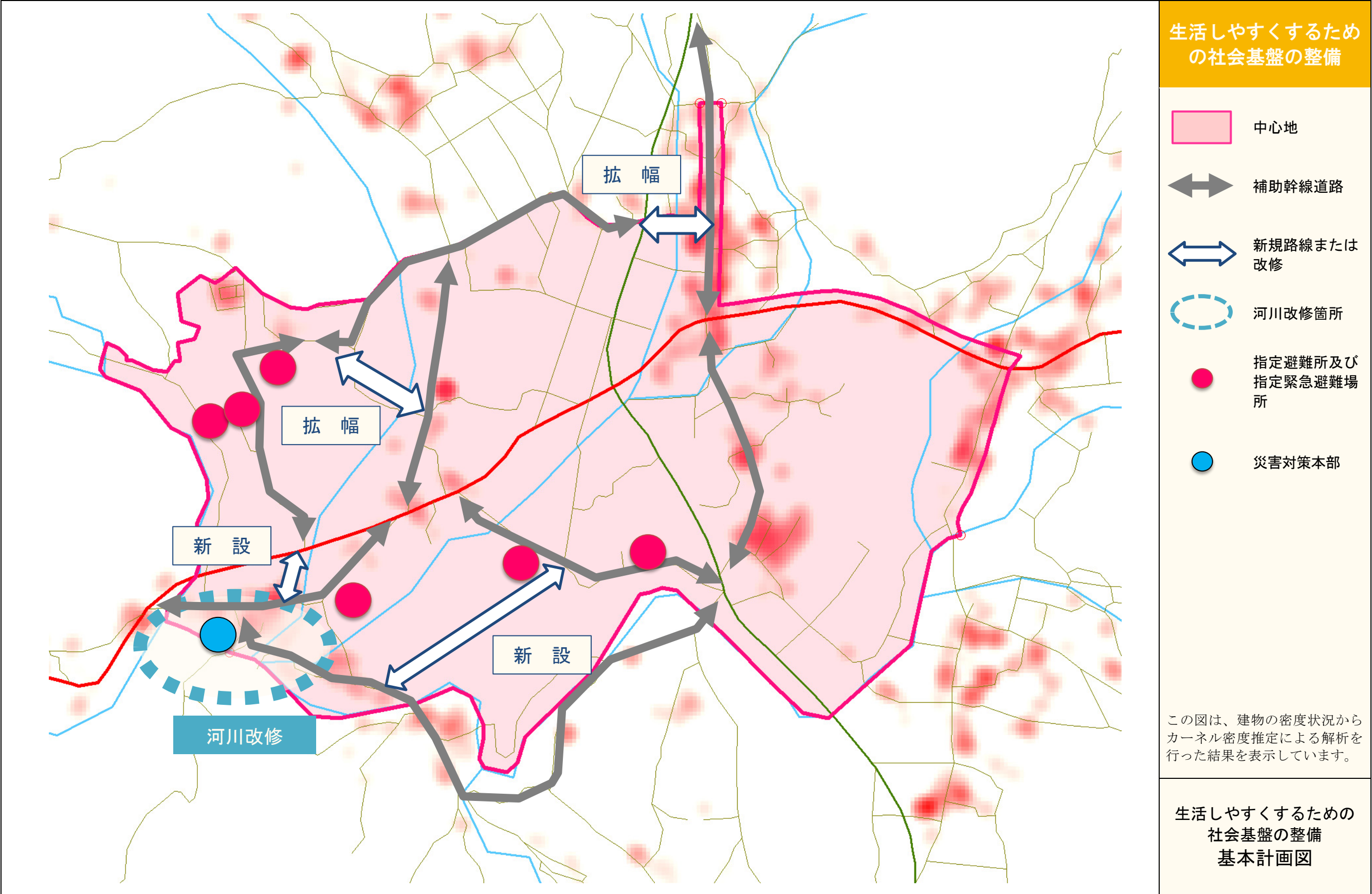


3-5 生活しやすくするための社会基盤の整備

(1) 施設整備方針

施設名称		目 的	整備方針
道路	道路整備・改修	・中心地における道路網を形成し、拠点間のつながりを強める。 ・通学路における安全性を高める。	・新規路線を整備する。
		・中心地における道路網を形成し、拠点間のつながりを強める。	・新規路線を整備する。
		・中心地における道路網を形成し、拠点間のつながりを強める。 ・通学路における安全性を高める。	・村道広町中学校線について、道路拡幅及び橋梁整備を行う。
		・中心地における道路網を形成し、拠点間のつながりを強める。	・村道新田役原線について、道路拡幅を行う。
	橋梁補修	・水害発生時において、中心地の主要な連絡経路が遮断されないように橋梁を補修する。	・橋梁補修を行う。
住宅	宅地造成	・中心地に住宅地を形成し、拠点間のつながりを強め、利便性の高い居住環境を整備する。	・生活道路及び上下水道等の生活環境整備を行う。 ・宅地造成に伴う崖崩れ又は土砂の流出による災害防止などの安全面に配慮する。
	公営住宅	・中心地に住宅地を形成し、拠点間のつながりを強め、利便性の高い居住環境を整備する。 ・低所得者層に低廉な家賃の賃貸住宅を供給する。	・生活道路及び上下水道等の生活環境整備を行う。 ・宅地造成に伴う崖崩れ又は土砂の流出による災害防止などの安全面に配慮する。 ・高齢者、障害者等に配慮したバリアフリー整備を行う。
交通	え 施設 バス 乗 乗 換	・村内から都市部への通学等を支援するため、公共交通機関について、乗り換えや発着、迎え等の交通を円滑に処理する施設を整備する。	・福祉バス乗換場を整備する。 ・福祉バス停をリニューアルする。
河川	河川護岸	・名久田川と役原川及び名久田川と西沢川の合流部に位置するエリアについては、河川護岸を補修し安全性を高める。 ・また、河川の親水性を高め、子どもの遊び場及び教育の場としての空間形成を高める。	・役場周辺の河川については、耐浸透機能及び耐侵食機能を有した護岸整備を行う。 ・親水性及び景観に配慮した階段式の緩傾斜工法等による整備を行う。
農業	水路改修	・農振農用地については、農業用排水施設の機能確保・回復を行い、農業生産の維持及び農業経営の安定を図る。	・水路を補修する。 ・生態系の保全に努める。

(2) 施設整備計画



4-1 実現に向けての基本的考え方と役割

むらの中心地づくり基本計画の実現に向けて、むらの中心地づくりの目標、基本方針などの基本的な考え方を共有しながら、村民、事業者、行政が協働で取り組んでいくことが重要です。

そのために、行政によるむらづくりに関する情報公開や、村民、事業者の自発的なむらづくりの取り組みに対する支援に努めます。

(1) 村民・事業者の役割

■村民

地域住民間で連携をはかり、むらづくりに関する活動やボランティア活動などの村民主体の活動をすすめるとともに、身近な生活環境や居住環境の向上などの自らできることを積極的に行い、団体等については、各種むらづくり団体の組織化やネットワークの形成、強化などを行います。

■事業者

地域の村民や行政と連携・協力するとともに、社会的な役割や専門的な知識を活用し、地域の活性化などの活動を行います。

(2) 行政の役割

■推進体制の充実

総合的かつ効果的なまちづくりを推進するため、庁内の関係各課が連携し、横断的な連絡・調整をはかりながら事業の推進に努めます。

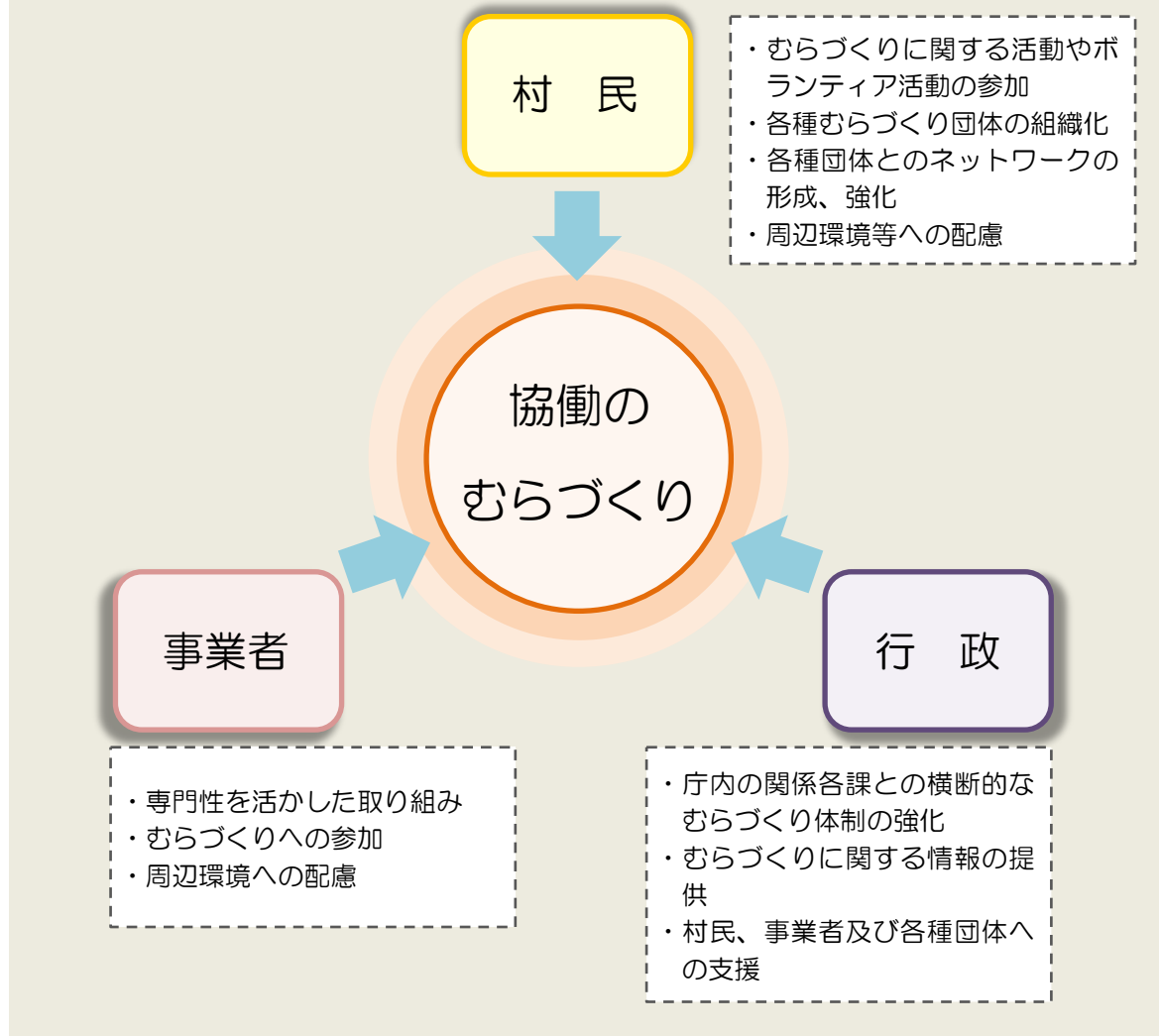
■情報の収集と提供

むらづくりに関する様々な情報の収集と提供を行うとともに、行政が率先して取り組むむらづくりについて計画段階から情報を提供するなど、積極的に村民参加を促します。

■支援・助成制度の充実

村民が主体のむらづくり学習会や景観協定等の締結・実現化など、それぞれの段階に応じて、適切な助言・支援や助成制度等の充実をはかります。

【協働体制】



4-2 事業スケジュール

(1) 村の中核をになう観光拠点の形成

	施設名称	短 期	中 期	長 期	備考
道の駅「中山盆地」	緑地公園整備	●			H28年完成予定
	地域交流館		●		H31年完成予定
	農産物加工施設	●			
	駐車場		●		
	道路		●		
三国街道	街道			●	
	町並み景観			●	
	照明			●	
ソフト策	公園等整備委員会	●			
	道の駅運営委員会	●			
	旧三国街道新田宿復活祭	●			
	山岳ガイド	●			
	たかやまウォーク	●			
	ナイトウォーク	●			
	たかやま真田道城址めぐり	●			

(2) 子育てから介護までの連携体制

	施設名称	短 期	中 期	長 期	備考
リニ ニ ユ ー ア ル 運 動 公 園	屋内運動場	●			H29年完成予定
	テニスコート	●			H29年完成予定
	駐車場	●			H29年完成予定
いぶき会館			●		
中 山 城 址	広場		●		
	歩道		●		
	トイレ		●		

(3) いざというときのための防災拠点の整備

	施設名称	短 期	中 期	長 期	備考
道 の 駅 「 中 山 盆 地 」	非常用電源装置		●		H30年完成予定
	飲料水貯水槽		●		H30年完成予定
	非常用トイレ用浄化槽整備		●		H30年完成予定
	情報提供施設整備		●		H30年完成予定
	防災備蓄庫		●		H30年完成予定
拠 点 活 動	役場		●		
	いぶき会館周辺	●			
道 路	緊急輸送道路の整備	●			

(4) 田園風景の保全と調和

	施設名称	短 期	中 期	長 期	備考
サイン	日本ロマンチック街道	●			
	三国街道	●			
景観類型別方針	住宅地区（判形地区）	●			
	住宅地区（新田地区）	●	●		無電柱化については中期予定
	農地地区	●			
ソフト策	旧三国街道新田宿復活祭	●			

(5) 生活しやすくするための社会基盤の整備

	施設名称	短 期	中 期	長 期	備考
道路	道路整備・改修		●		
	橋梁補修	●			
交通	バス乗り換え施設	●			
河川	河川護岸		●		
農業	水路改修	●			

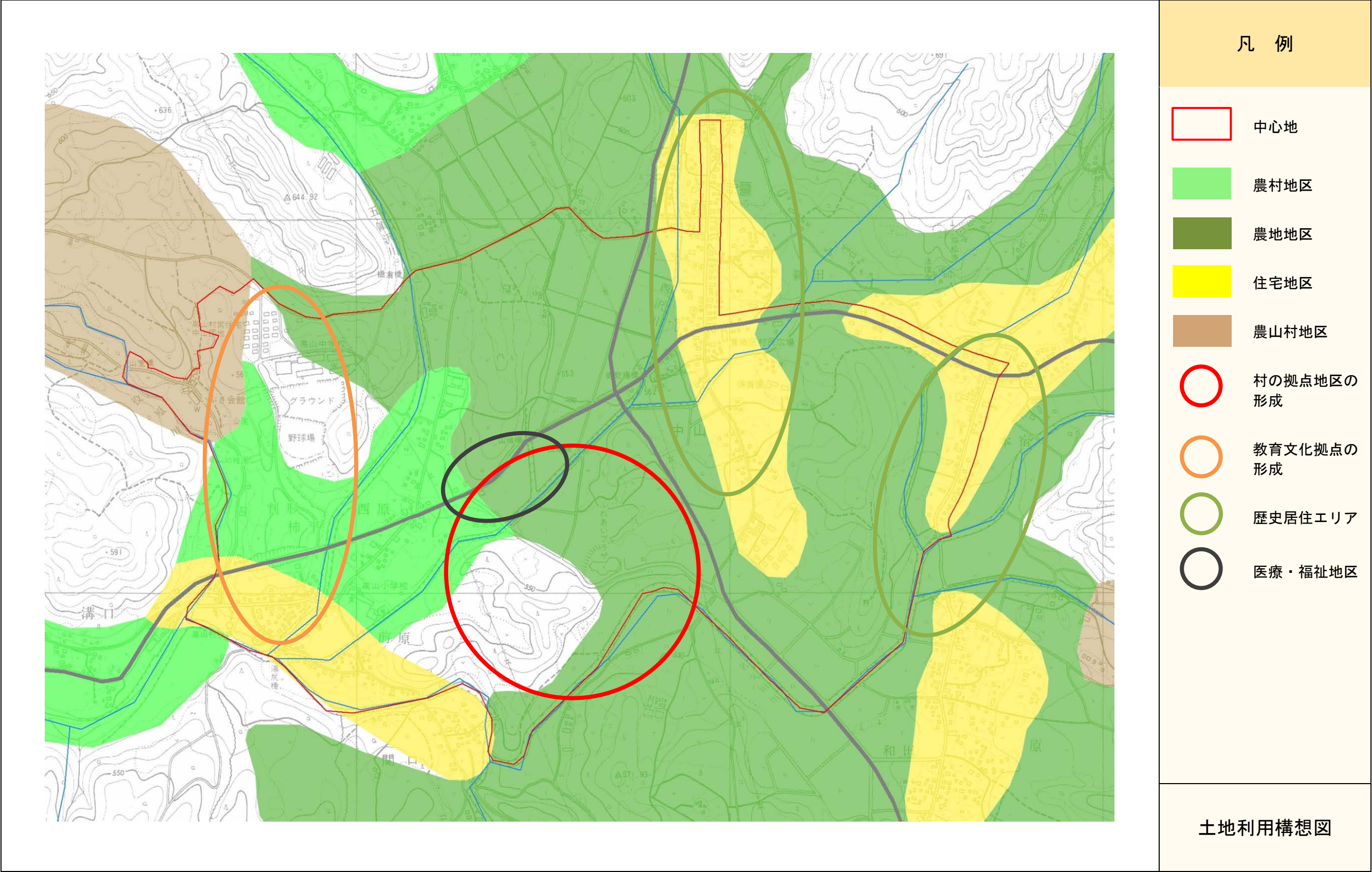
- 1 総合計画
 - (1) 土地利用構想図

- 2 景観計画
 - (1) 景観類型図
 - (2) 現況地目とむらの中心地
 - (3) 航空写真

- 3 道の駅
 - (1) 整備構想

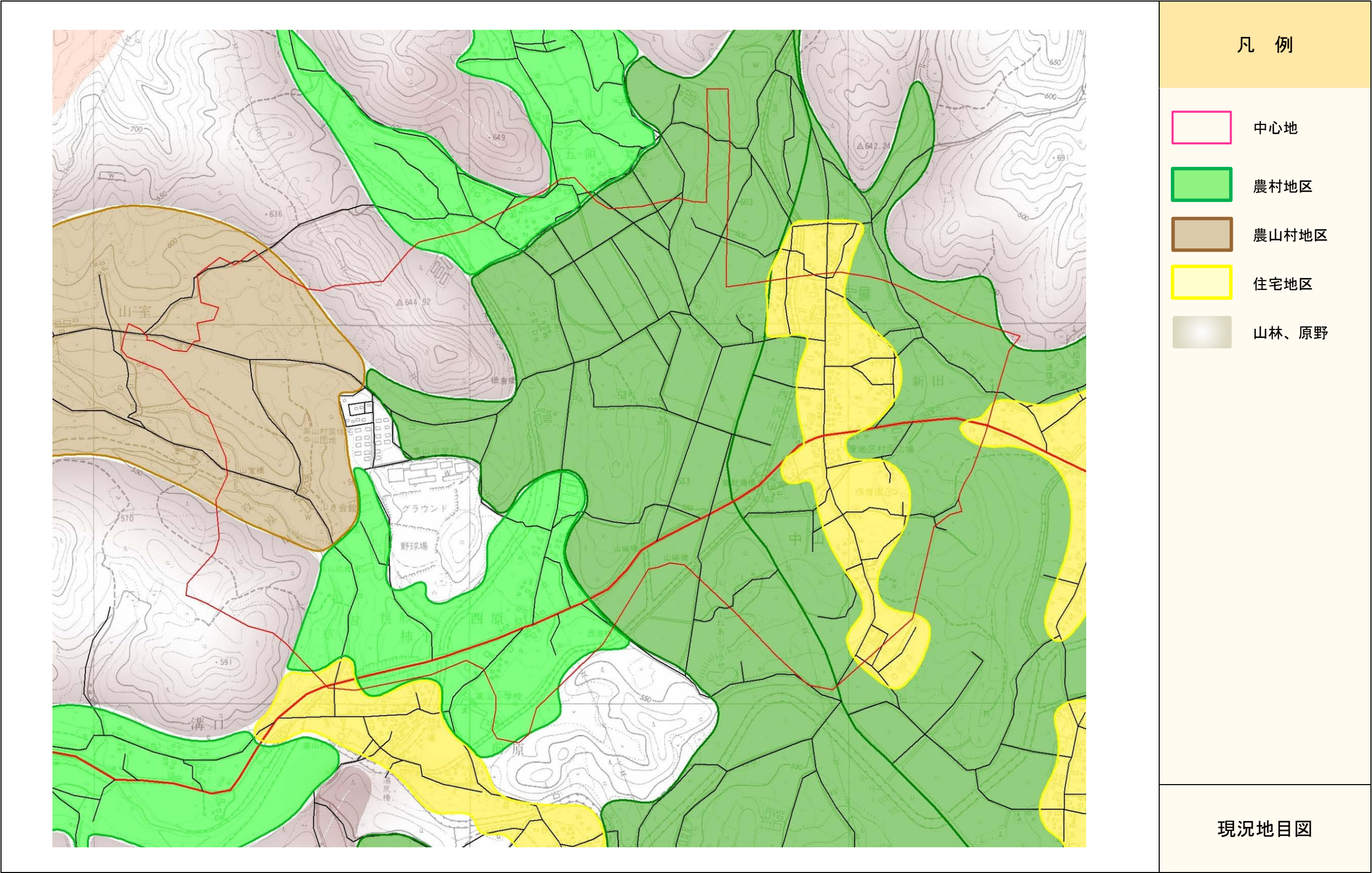
1 総合計画

(1) 土地利用構想図

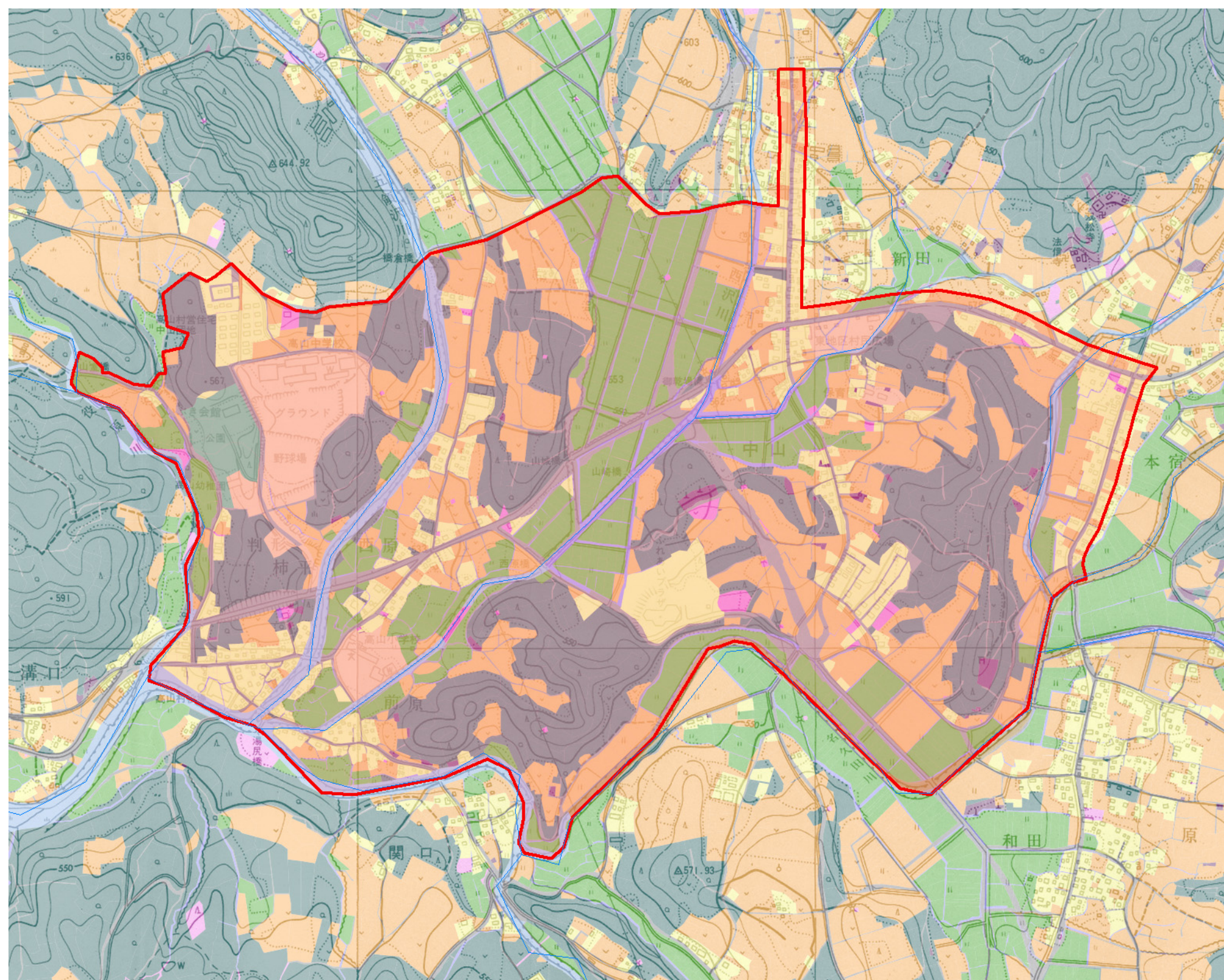


2 景観計画

(1) 景観類型図



（２）現況地目とむらの中心地



凡 例

中心地

烟

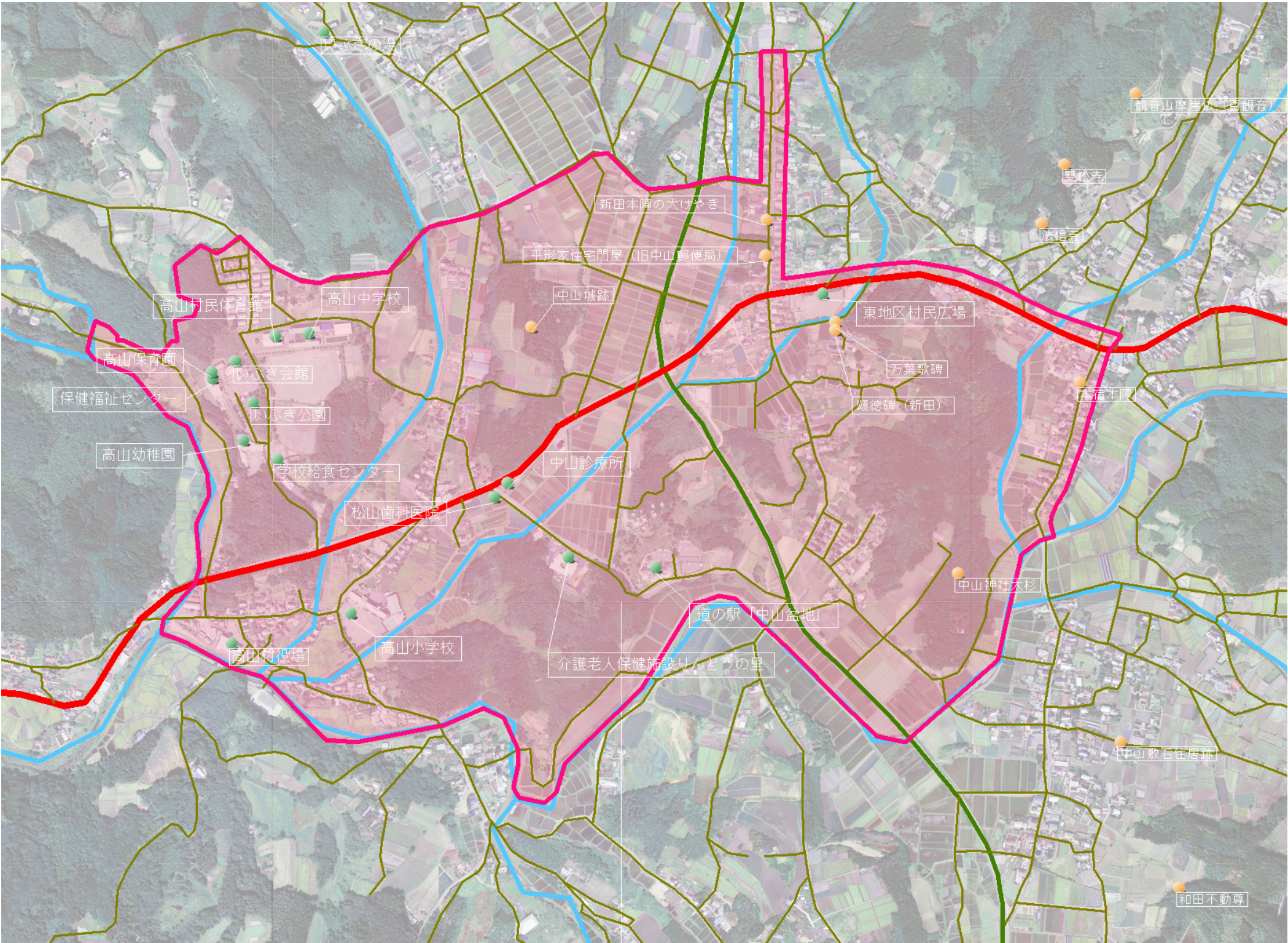
河川、水辺等

山林、原野

雜種地

現況地目図

(3) 航空写真とむらの中心地



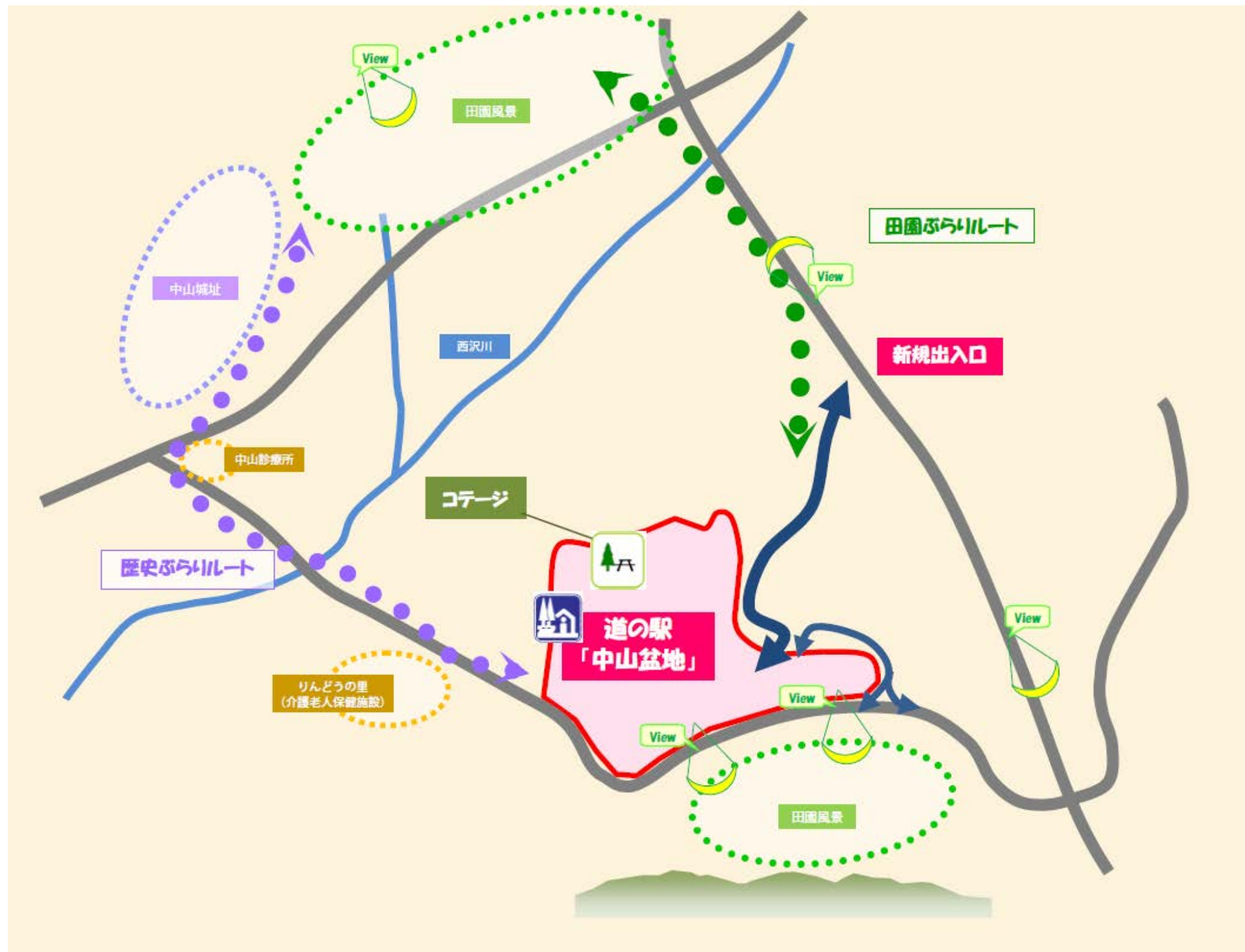
凡 例

- 中心地
- 公共施設
- 文化財施設

航空写真図

3 道の駅

(1) 道の駅構想図



道の駅構想図

■資料 「道の駅として登録する必要性について」（平成25年7月、高山村）抜粋

2. 村における基本構想

道の駅「中山盆地」

2-2

村における基本構想



4. 期待される機能

道の駅「中山盆地」

4-2

道の駅における情報発信・地域連携機能

周辺施設 への展開

村では、「ふるさと祭り」「ナイトウォーク」「旧三国街道新田宿復活祭」など、様々なイベントがあります。
このようなイベントと連携し、多くの都市居住者と交流することで、村の活性化につなげたいと考えています。

■ふるさと祭り



■ふるさと祭り



■ナイトウォーク
inたかやま2012



■新田復活祭



資料：「高山村人ブログ」（高山村「元気づくり」実行委員会、<http://taka-genki.jp/>）
資料：「高山村商工会HP」－「新着情報」（<http://www5.wind.ne.jp/takayama/index.html>）より